

献 辞

本学経済科学部教授の有定愛展先生は、令和4年2月1日に永眠されました。広島修道大学経済科学会では、教授のこれまでの本学への多大なる貢献に対して心から感謝の気持ちを表し、今号を追悼号として刊行させていただくことにいたしました。

有定教授は、昭和56年3月に九州大学経済学部をご卒業後、九州大学大学院経済学研究科に進学し、昭和58年3月に同大学院経済学研究科修士課程を修了され、その後、昭和61年3月に同大学院経済学研究科博士後期課程において単位取得をされております。

昭和61年4月から広島修道大学商学部にて専任講師として赴任し、同63年に助教授に就任されました。その後、平成9年4月の広島修道大学経済科学部開設に伴い、広島修道大学経済科学部助教授に配置換となり、同12年に広島修道大学経済科学部教授に就任されました。また、平成13年4月の広島修道大学大学院経済科学研究科開設に伴い、広島修道大学大学院経済科学研究科修士課程専任教授に就任され、同15年4月には同大学院経済科学研究科博士後期課程専任教授にも就任されております。

昭和61年4月から平成9年3月までは、商学部講師および助教授として、主にオペレーションズ・リサーチの手法やその応用分野、特に経済分析への応用などについて、講義やゼミナールを通じた基礎から応用に至るまでの丁寧な教育活動に携わっておられました。

平成9年4月からは、経済科学部助教授および教授として、主に経済システム科学、情報経済学の基礎から応用に至るまで、講義やゼミナールを通じて丁寧な教育活動に携わっておられました。特に、経済システム科学の講義やゼミナールを通じた教育においては、経済学とシステム科学、情報科学の融合を試みるという今までにない全く新しい分野の教育を行わなければならず、参考となる雛形がほとんど存在しない状況での手探りの教育活動となっていたと思われまふ。しかしながら、教授の卓越した教育能力と熱心な指導姿勢により、講義やゼミナールを受講した学生たちは、まるで既存の学問分野であるかのように学修を進めることができたと思ひます。

学会活動としては、日本経済学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、九州経済学会などの会員として活躍され、教授の優れた研究報告は学会において高く評価されております。教授の研究分野は、ゲームと情報の経済学ですが、この分野は教授が九州大学大学院に在学中のころに日本でも学会等を通じて萌芽してきた分野であり、教授はゲームと情報の経済学の日本における発展とともにご自身のご研究を展開してこられ、本号の巻末に紹介させていただいている数々の学術論文には、ゲームと情報の経済学の発展に伴う研究成果が散りばめられております。

教授は、ご自身のご研究および講義やゼミナールにおける教育活動に熱心に取り組まれ

ただけではなく、広島修道大学全般にかかわる業務、経済科学部における教学関係の業務、入試関係の業務などにも積極的に取り組まれてきました。経済科学部のカリキュラム改訂や入試制度の改革などの課題に取り組まなければならないときには、教授は無くてはならない人物でした。特に、平成9年4月の広島修道大学経済科学部開設におきましては、経済科学部設置に向けた設置準備委員会における数年間にわたる膨大な準備作業の中心的な人物として活躍されました。そして、文部省の設置審議会を無事に通過して経済科学部開設の運びとなりましたが、教授の存在なしには経済科学部の開設はありえなかったと言っても過言ではないでしょう。また、平成29年5月に開催された経済科学部開設20周年の記念事業におきましても、教授はその多大な開催準備作業の中心的な人物としても活躍されました。そして、20周年記念事業は盛会のうちに執り行われましたが、この記念事業におきましても教授の存在なしには十分な準備作業はできなかったと思われます。

教授は、たとえば学部開設準備をリードできるような卓越した企画力・行動力を持った人物でありましたが、その一方で、非常に細やかな心遣いができる方でもありました。その心遣いは同僚である教職員に対してのみではなく、教授が指導されたゼミナールあるいは講義を受講した学生たちにも向けられるものでした。広島修道大学経済科学部在学中に講義やゼミナールを通じて教授の指導を受けた卒業生が教授のもとを訪ねてくる場面を学内でお見かけすることは珍しいことではありませんでした。

平成30年5月に重い病に倒れられましたが、その後のリハビリを通じて半年も経たないうちに勤務に復帰し、何事もなかったかのように研究・教育活動を再開されました。そして、経済科学部における教学関係の業務、入試関係の業務などにおきましても以前と同じような活躍を再開され、そのご様子を頼もしく、かつ、心強く感じていたのは私だけではなかったと思います。しかしながら、以前と同じようにご活躍を続けられる中で、最近、体調の不良について小声でお話される場面が時折あり、どうぞご無理をなされないようにとお話しさせていただいておりましたが、本年2月、突然に黄泉の国へ旅立たれてしまいました。

お元気であれば、まだまだ教育・研究活動における活躍を続けられ、また経済科学部の今後の発展のためにさらなるご尽力をされたであろうことを慮りますと、ただただ残念で堪りません。

心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

合掌

2022年6月

経済科学部長
前田 純 一